

東京都：女性のための防災人材育成カリキュラム検討会議

男女共同参画・多様性に配慮した 防災研修の取組み



Training Center for
Gender &
Disaster Risk Reduction

講師 浅野 幸子

減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表
早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員

男女共同参画の視点から見た災害時の諸課題

(浅野・池田 2015より)

- ① **生活環境** (プライバシーや衛生問題, 乳幼児・障害者・認知症など集団生活になじまない人と家族の困難)
- ② **救援物資** (育児・介護用品や女性用品の不足, 在宅避難者が物資を受け取れない)
- ③ **心身の健康** (女性の不眠・傾向, 便秘, 生理時の困難, 膀胱炎, 妊産婦・褥婦の医療支援不足)
- ④ **安全面** (DVの増加, 盗撮・性暴力・ハラスメント。被災者・支援者ともに, 加害者・被害者のいずれにもなり得る)
- ⑤ **性別役割の顕在化・強化** (社会機能の停止・低下で家事・育児・介護の重労働化, 受け入れ親族の世話の負担, 避難所での炊き出しや掃除の女性への過度な負担)
- ⑥ **経済生活** (解雇, 交通の便の悪い応急住宅と保育や介護支援も無い中での就労の困難, 支援制度等の世帯主義、母子家庭の貧困化など)
- ⑦ **意思決定・指導的立場の男女の不平等**
(避難所運営をはじめ地域の共助・支援活動・復興協議機の場合などの責任者や委員の大半が男性, 復興アンケートは世帯主宛で, 女性や若者の意志が反映されにくいなど)
- ⑧ **復興期の家庭・地域での人間関係**
(男性の孤立・引きこもり・妻や親の介護で追いつめられる問題, DVや児童虐待の増加, 住宅再建等での家族関係, 復興後のコミュニティのあり方)
- ⑨ **関係機関の連携不足** (行政・民間団体・専門家ともに)

自治体の男女共同参画の視点での防災の取組み状況

地域防災会議・・・

都道府県の女性委員の割合13.2% (平成27年度)
政令指定都市の女性委員割合12.6%

どのように女性委員の意見を活かすかの工夫も大切。
例：部会やモニター制度の設置

地域防災計画・・・ 一定の記述がされるようになったが...

避難所運営マニュアル・・・

あれば、一定の記述がされるように。ただし、十分関係者に周知されていない、運営への女性の参加について特に努力されていない。

職員への周知・・・ 避難所マニュアルの内容自体も十分周知されていない

住民・市民リーダーへの周知・・・

女性リーダー育成・・・

女性防災リーダー養成講座等を開催しても、
地域の男性リーダーの理解が進まないと修了者は活躍できない。

まだまだ努力が必要

男女共同参画部局・センター等女性関連施設・・・

講座などが広く行われるも地域と乖離傾向だったが、最近では、防災・危機管理部署と連携するなどして地域と連携できるよう努力する男女部局・センターも徐々に増える。

真に災害時の実践に結び付く人材育成をめざすために1

■女性防災リーダーを育成する目的・意義は？

- 女性を、単なるマンパワー（数合わせ）として見ることや、災害時の生活領域の仕事の全ての責任を押し付けることは誤り
- リーダー層で活躍できる女性を増やし、作業自体は老若男女が担う体制を

<災害時> 女性リーダーがいることで

自治体等の支援：災害時に地域（組織）の被災者ニーズをより一層的確に者の立場から把握できるようになり「被災者支援の質」全体が上がる。

地域の立場から：災害時に女性被災者が相談しやすくなり、女性・育児・介護ニーズが顕在化する。生活目線の対応（環境・衛生面での改善）の質が上がる。受援力が上がる。

<平常時> 女性リーダーがいることで

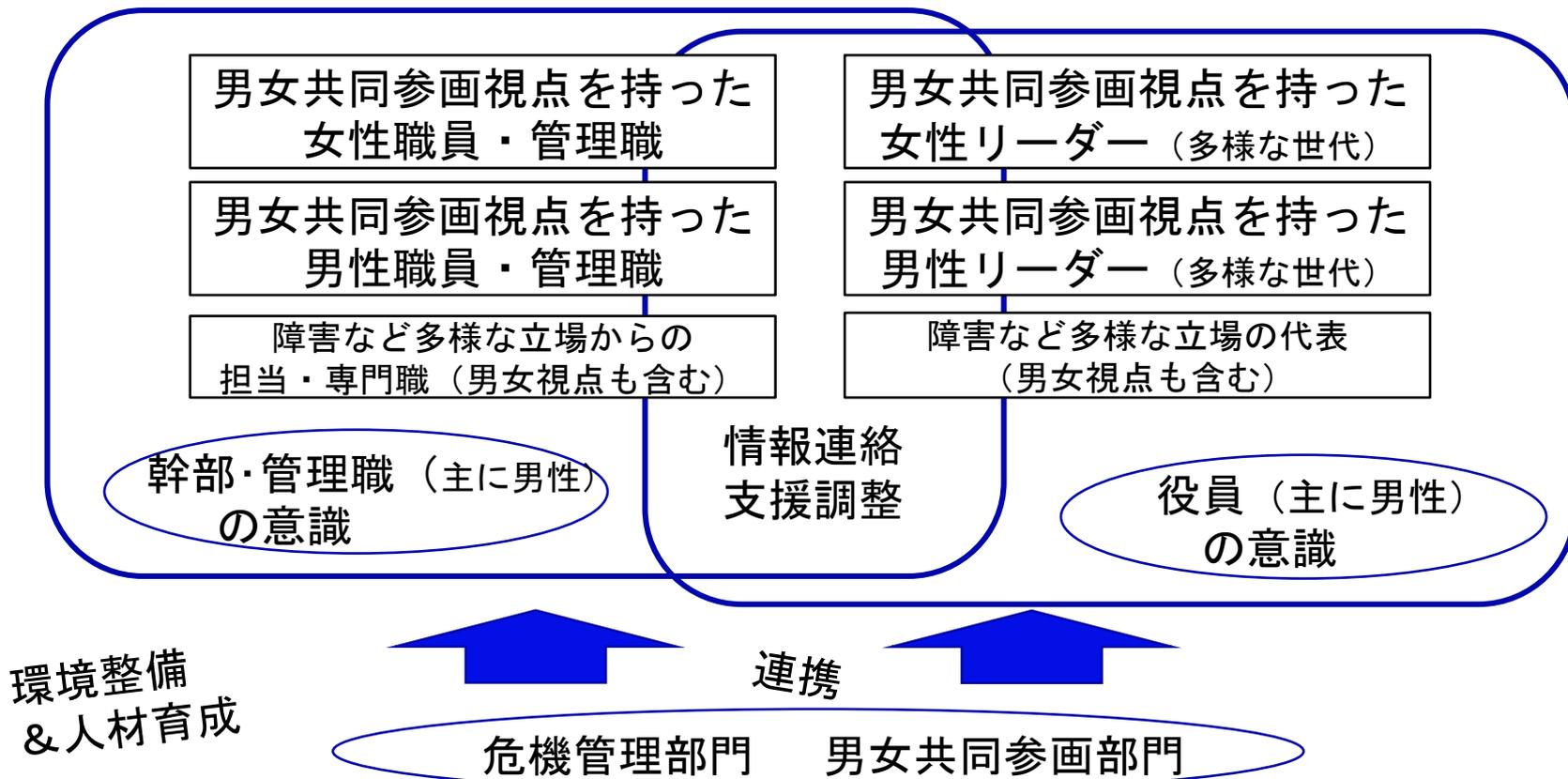
自治体等の支援：女性ニーズだけでなく、育児・介護・環境・衛生・栄養面者の立場から等での防災対策の内容・質が向上する。

地域の立場から：女性や若い層が活動に参加しやすくなる（高齢の男性だけだと近寄りづらい、ライフスタイルや価値観の多様化に対応できない）。要配慮者対策の実効性が高まる。

真に災害時の実践に結び付く人材育成をめざすために2

市町村 (民間救援組織も同様)

地域コミュニティ
(自主防災組織)



* あらゆる部局との連携、
地域防災力の向上
* しかし現実には... ?

貢献可能性大

* くらし、組織、地域まで、あらゆる
分野の横串としての政策
* 地域の女性人材の把握、教育機能

〔事例〕 部門間連携の事例

台東区

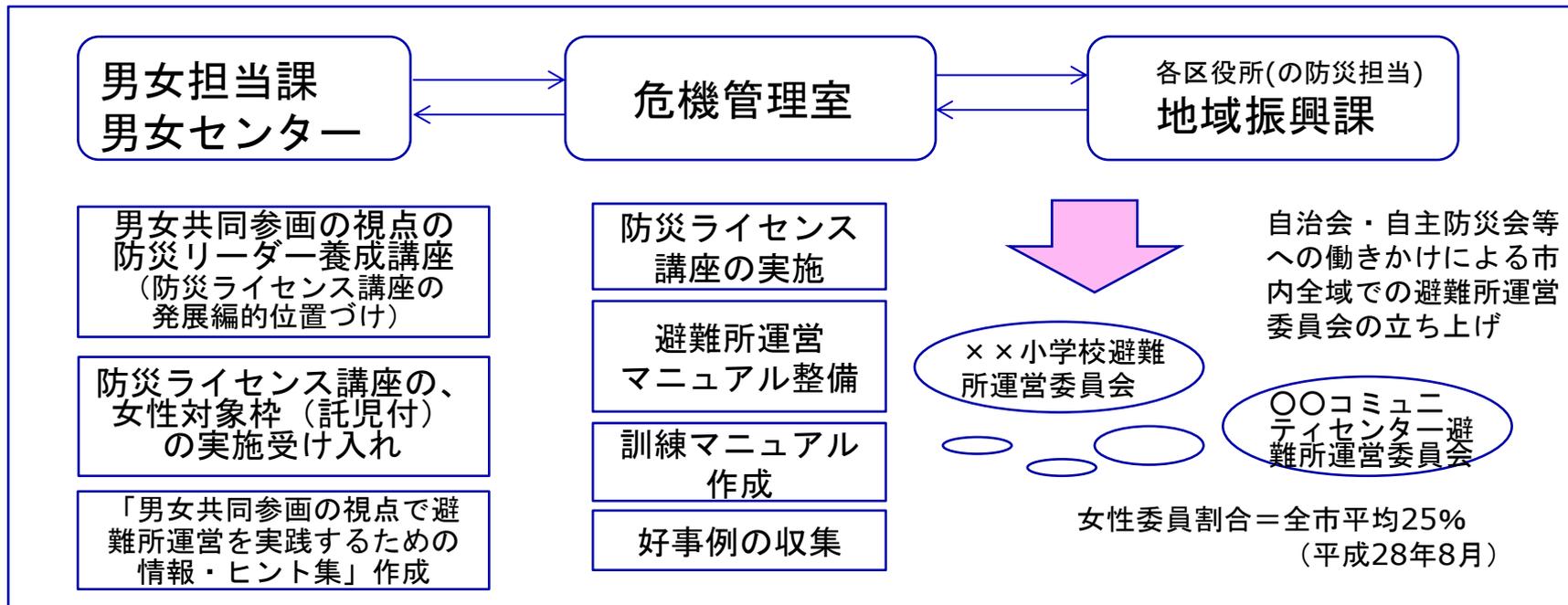
- ✓ 区男女平等推進プラザ（人権・男女共同参画課）と危機・災害対策課が連携。
- ✓ 2016年9月に町会向リーダー向け防災講演を男女・多様な視点の防災に設定。（実際の演題は避難所の命・健康問題等を想起させるものに工夫。女性視点・男女共同参画の文言だけでは男性の関心を得られないため）
- ✓ その場で、11月23日（祝日）に男女センターが実施する、子育て世代向け（午前）と、地域で活動する女性向け（午後）。“リーダー”の文言はあえて入れないの防災講座を広報（両方2時間）。

⇒男女平等推進プラザの講座
午前約60人、午後90人（一部男性の地域役員やパパ）が参加

小平市

- ✓ 市社協が毎年主催の防災イベントの2014年度は、男女視点や要配慮者の視点をテーマに、市防災安全課と男女共同参画担当課も協力。
- ✓ 自治会・町会、民生委員、障害者団体、福祉系ほか市内のボランティア団体、女性団体が一同に集い、混成グループで学習&ワークショップ。
- ✓ 各者が災害時の困難をどうとらえているかを確認すると同時に、それぞれの持つネットワークなどの資源・や能力を共有。
- ✓ 小平市内のボランティア・NPOの一覧とともに、災害時に地域と各種団体が、お互いに助け合っていくことの重要性を確認。

〔事例〕 千葉市の取り組み (全体像)



* 防災会議に「男女共同参画の視点を取り入れる部会」を設置

福祉・女性防災関係の学識者、女性団体、看護協会、災害ボランティア、国際交流協会、災害ボランティア、男女課、社協等の委員により、多様な視点に立った防災対策について議論。継続設置し、経年で市の取組み状況の進捗をチェック。

* 「防災ライセンス講座」の実施

地域・市民リーダー向けの2日間の研修。1日目の座学の最後に男女視点の地域防災体制を学習。受講者の多くが男性地域リーダー。

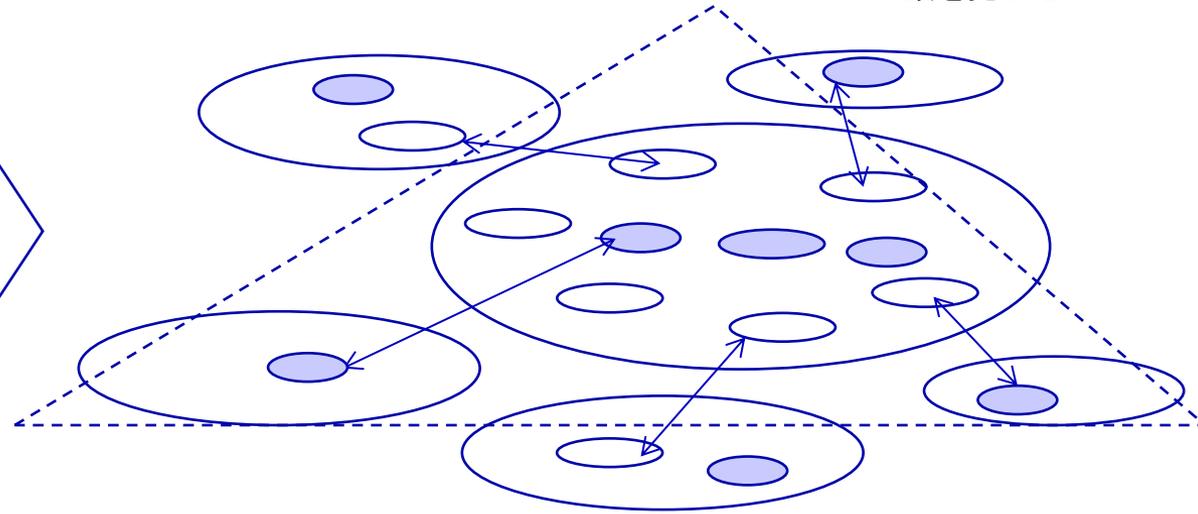
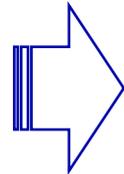
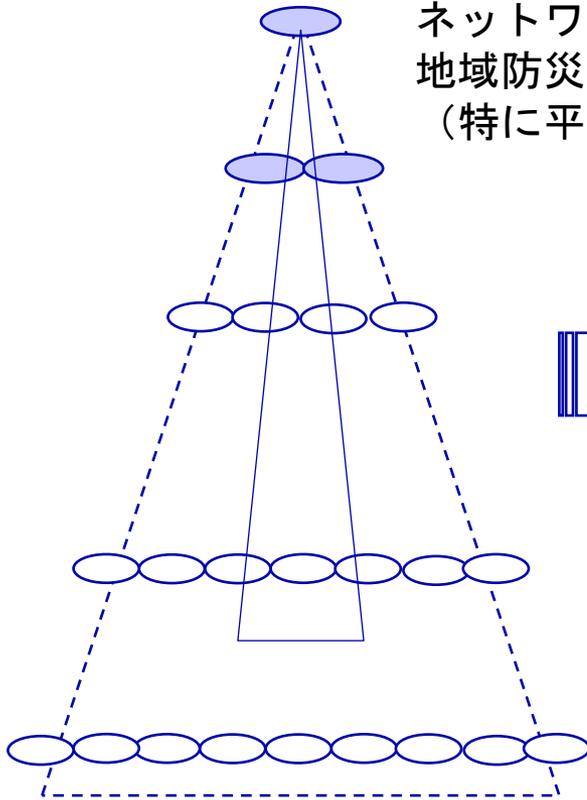
* 全管理職職員への研修

平成25年度の管理職職員向け研修で、ハラスメント防止のテーマと併せて、男女共同参画の視点の防災の研修を実施。各区役所地域振興課の防災担当職員も任意で参加。

地域防災組織のマネジメントのこれからは？

トップダウンではなく、
ネットワーク型かつ、チームマネジメントが
地域防災活動にはふさわしいのでは？
(特に平常時および避難生活期)

表面的にはトップダウン
型のように見せつつ内実
はネットワーク型。
必要に応じてトップダウン
の顔を見せるイメージ



フラットな関係、多様性の尊重、情報の共有、協議

- 地域組織はリーダーが倒れた場合に人材の代替・補給が難しい。
- 少数のリーダーが掌握するトップダウン体制、画一的な指示系統や訓練だと、臨機応変な対応が難しい。
- 一部の性・世代にリーダー層が偏っていると、災害時の諸課題に十分対応できない（特に避難生活期）。他の世代や性の人がかかわりにくい

今後の検討に向けて

- 地域(防災)活動の二つのマネジメント分野のイメージ
- 両方とも重要で、どちらかが上・偉い、ということはない

組織系マネジメント

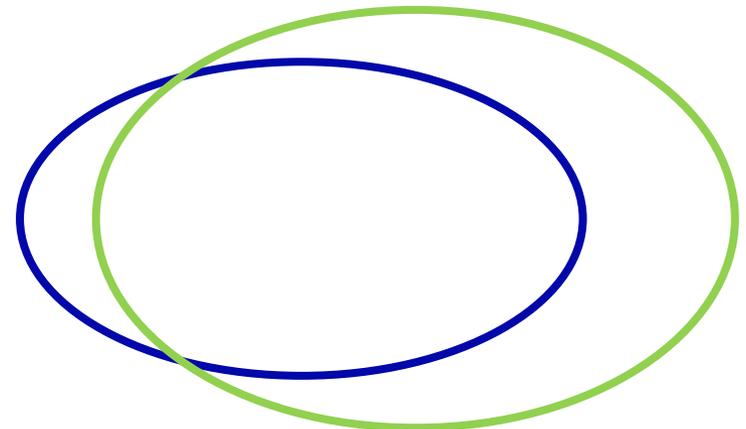
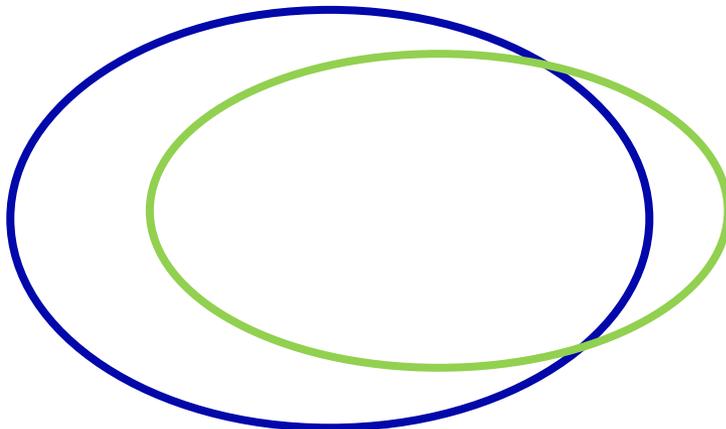
組織化
利害調整
交渉 など

生活系マネジメント

親睦・環境・衛生・
介護・子育て・栄養
など

コンフリクト時
緊急時

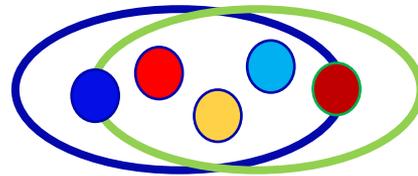
平常時
避難生活期



今後の検討に向けて

- リーダー育成のプロセスでは、個人の経験に基づく発展段階の用意も必要かもしれない
- 男女別に傾向はあるものの、個人差が大きいことには留意が必要

組織系・生活系のいずれのマネジメントにも目配りできるリーダー層へ



一人で両方を完璧にマネジメントできる人はいない。リーダー層も多様なタイプの複数の人材からなるチーム制のイメージでなければ地域活動・共助活動の質は上がらない。リーダーシップ像も転換が必要。今後は青少年もリーダー層へ。

両方の経験の場を作る

組織系マネジメント
組織化
利害調整
交渉 など

生活系マネジメント
親睦・環境・衛生・
介護・子育て・栄養
など

会社・団体などの組織的経験が主・そのほうが向いていると思う人

組織的・生活的経験の両方を経験している人、いずれも経験が不十分・自信のない人

家庭などの生活的経験が主・そのほうが向いていると思う人

※ここでは、たとえば、会社人でありつつも家庭責任を担ったことのある男女（その逆もしかり）、料理人・介護職・職人等で組織経験をしたことのない人（ある人）など、多様性があることを前提としている。

今後の検討に向けて

➤ 最近の傾向：地域で実践可能な実働型訓練の要望が徐々に増えている

潜在的に求められているもの

- ・ 女性の参画・能力を引き出す実働型訓練プログラム
 - 地域の女性が参加しやすいもの
 - 地域の女性がリーダーシップを発揮しやすいもの
(指導的立場での経験を積めるもの)
- ・ 男女一緒に取り組める実働型訓練プログラム
男女ともに参加しやすく気づきにつながるもの

これまでは
炊き出しが
(+応急救護)
がその代表的な
訓練メニュー

↓
性別役割の固定化
を促進してしまう
(女性は炊き出し
や掃除だけ)

➤ 対応の方向性

- ・ 避難所運営委員会などが立ち上がり、すでに訓練が行われている
⇒ 運営本部や各役割班等のリーダー・サブリーダーの
男女比を3割前後、できれば5割にする。
- ・ 炊き出しに男性も入る（指導は女性 or あえて男性だけで実施）、
同時に、女性も、企画運営、進行、設備関係などを担当する。
- ・ 女性が参画しやすく、リーダーシップを発揮でき、なおかつ、
性別役割の固定化を招きにくい訓練メニューを考える

〔事例〕茨木市（大阪府）の取り組み

職員研修

全庁対象の職員研修の一つに防災を組み込む。ここ数年は、男女共同参画・多様性配慮の視点を入れた、避難所開設運営図上訓練を実施。

女性防災リーダー育成事業

平成26年度から危機管理課、人権・男女共生課の共催で連続講座を開始。毎年2時間×4回程度。平成28年度に、市自主防災組織連絡会に女性部会（愛称：いばらき女子防災部）設置。

http://www.city.ibaraki.osaka.jp/kikou/soumu/kikikanri/menu/jyosei_bousaijigyuu/ibarakiwemendisastermanagementclub.html

<女性だけの防災訓練>

*午前中、女性だけで訓練（地域女性リーダー＋市役所や社協職員も参加）。午後からは自主防災連絡会リーダー（多くが男性）を招いての報告会（訓練現場見学と映像による訓練の様子の共有、訓練参加女性からの感想発表）

*ただし、女性に全ての責任と作業を押し付ける目的ではないことを、男性リーダーも含む全体で確認（近い将来女性も男性と共同で指導的立場に立てるように）

※ 地域防災組織活性化のための工夫

茨木市自主防災組織連絡会

女性部会

防災士部会

女性だけの防災訓練実施（平成29年2月）



トイレ・衛生対策 / 避難所環境整備
現場の意思決定をすべて女性だけで行う

<ポイント1>

男女共同参画の視点を持った地域防災リーダー、 地域防災組織を育成するには？

* 自治体としての推進体制が重要

危機管理・防災部局と、男女部局の連携はもちろん、福祉部局、地域振興関係部局、社会教育部局、社会福祉協議会などの連携も重要

* 地域防災体制・活動の将来イメージを示す

自治会役員でなければ自主防災組織の役員になれない、という思い込みを変え、女性や若者の活躍の場をうまく作っている自主防災組織の事例を具体的に提示する。

* 数値で進捗を測る（静岡県、千葉市、大阪市など）

* 継続的な啓発が不可欠（単発事業はあまり効果なし。啓発資料作成も有効）

* 男性リーダー層への働きかけが不可欠

女性だけへの働きかけは重要であると同時に限界が（複数自治体で変化）
また、既存の防災リーダー像を変えることも必要。

* 男女ともに学習・訓練する場と、女性だけで学習・訓練する場の両方が必要

* 学習・訓練メニューの例

手引き・映像による学習／男女共同参画の視点を入れたHUG（避難所運営ゲーム）
内閣府男女共同参画の視点からの防災研修プログラム（内閣府男女局）
減災と男女共同参画 研修推進センター ワークブック（配布）

<ポイント2>

防災活動への女性の積極的な参画の実現

- * **確認**：すべての責任と作業を女性に押し付けるということではない！
対象となる女性自身にも、地域の男性リーダーにもしっかりと伝達
- * **環境整備**
男性リーダーへの理解の浸透、女性・若者が参画しやすい地域防災体制づくり（千葉市・四日市・茨木市など）。会議の持ち方や時間等も
- * **女性を一括りにしない**
世代、既婚・未婚、子持ちかどうかでも違いがある。
- * **関心を持ちやすい切り口を**
避難所レイアウト・運営、トイレ・衛生対策、在宅避難問題など
- * **ただし、リーダーという文字に、ためらう女性も多いので使い分けを**
- * **まず参加してもらい、「女性も主体的に地域防災活動にかかわっていかないと、災害時に自分や家族を守ることは難しい」と伝える**
活動当初は限定的な内容であっても、早晚、指導的立場で取り組んでいただきたい。男性リーダーに頼っても、衛生・栄養・女性・育児・介護の要望は改善しない、ということメッセージとして伝える。
- * **女性だけで議論・意思決定し、取りまとめ・発表する機会づくりも重要**

減災と男女共同参画 研修推進センター の研修

	目標段階	具体的な獲得目標
A 一般研修	①気づき	災害・防災体制における男女共同参画の重要性に関して、基礎知識と問題の構造をしっかりと理解することで、他者を尊重する意識・受容感覚とともに、多様な人と連携・協働しようと思えることができるようになる。
	②実践力	政策形成や防災・災害支援の現場での活動を前提とした、実践的な思考力・判断力・連携力が身に付く。女性の参加者は、防災の政策形成過程や地域防防災活動への参画力が身につく。
B 指導者 向け研修	③場づくり力	多様な学習・研修の場づくりやトレーニングができるようになる。特に、災害と男女共同参画の課題に対する、男性の理解者の広がり、地域への浸透が、防災分野での女性の参画や地域防災力のカギとなるため、男性を対象に場づくりができる力も重視。

『男女共同参画の視点で実践する災害対策 テキスト 災害とジェンダー<基礎編>』（GDRR, 2012年）9章より

対象：一般市民、地域住民、地域リーダー、市民団体リーダー、自治体職員（危機管理部門、男女共同参画部門、その他）、専門職、社会福祉協議会、災害支援ボランティア 等

減災と男女共同参画 研修推進センター の研修

●女性防災リーダー養成（目標段階の②実践力レベル）

さまざまなタイプの講座・研修を実施してきたこと、試験的に取り組んでいるプログラムなどもあるため、それらを踏まえてプログラムイメージを表現した。

<p>4時間 ~6時間</p> <p>1日か2日</p>	<p>①基礎知識（60分+自治体防災担当者による話も20分程度入れる） ②シミュレーション・イラスト教材等（WB p44~・47~） ③要配慮者等の支援を考えるワークショップ（WB p63~） ④避難所開設運営図上訓練 or 男女視点入りのHUG ⑤災害時の暴力防止（女性と子どもの安全）（WB p61~）</p> <p>宿題：地域の防災資源を書き出してくる（WB p42~） （事前、もしくは二日にわたる場合はその間）</p>	<p>自治会女性部、 地縁型女性防 災組織、PTA、 民生委員等、 活動基盤が地 域にある・防 災活動をすで にしている場 合を想定</p>
<p>8~ 12時間</p> <p>2~4日</p>	<p>①基礎知識 ②シミュレーション・イラスト教材等 ③男女共同参画の視点による防災政策の全体像 ④地元の防災対策（自治体防災担当者から防災マップ・避難所・備蓄） ⑤要配慮者等の支援を考えるワークショップ ⑥トイレ・衛生問題ワークショップ（現在試行中） ⑦避難所開設運営図上訓練 or 男女視点入りのHUG ⑧災害時の暴力防止（女性と子どもの安全） ⑨避難所施設での備蓄物資の搬出組立or避難所再現訓練</p> <p>宿題：地域の防災資源を書き出してくる 災害時の暴力防止のための教材を読んできると など</p>	<p>これまで防災 活動や地域活 動に取り組ん だことが無い 方、リーダー としての力を つけたい方な ど</p>

減災と男女共同参画 研修推進センター の研修

特に留意・重視していること

- 対立構造を招かないようにすること（特に男女間の）。
WIN-WINの関係を目指すこと。
- 女性リーダーが増えることの意義を具体的にしっかりと伝えること。
（活動する人たち全員でメリットを享受し、困難・負担を減らしながら、
共助活動の質を上げることであると、具体例・データとともに確認）
- 参加型学習では、課題をあいまいなまま終わらせないようにすること。
 - ・ 人道支援の国際基準や国・自治体・民間団体のガイドラインや過去の好事例などを示し、課題解決の方向性をできるだけきちんと示す。
 - ・ とはいえ、臨機応変な対応や調整は必要であること、困難に直面する当事者や支援者との対話の中に答えがあることを確認し、知識とともに、困難当事者とのコミュニケーション力、当事者の意思決定の場への参画が重要であることを確認（やってあげる → 一緒にやる）。
- 既存の防災組織像とリーダー（リーダーシップ）像の、転換の必要性と、その具体イメージや具体例を伝えること。
- よいチーム作りのためのコミュニケーションのあり方も伝えること。

<グループワーク> 話し合いの時のお約束

～信頼関係とチーム力を育むために～

- ▶ 全員が発言するようにしましょう
 - 限られた人が長時間しゃべり続けられない(時間の独占は×)
 - 発言していない人がいたら、発言を促してあげます
- ▶ 相手の意見を否定しないで会話を進めてみましょう
 - どのような意見でも、一度は相手を受けとめます
「なるほど～」 「あなたのおっしゃりたいことは、こういうことですね？」
 - 意見が違う場合は、提案の形で発言します
「こういう方法もあるかと思いますが、どうでしょう？」
- ▶ 考えのプロセスが相手から見える話し方も意識するようにしてみましょう 「私はこう思います。なぜなら……」

-
- * 地域活動の担い手を増やす上でも、災害時の助け合いでも多様な意見が出しあえる、対等な関係づくりが重要です。
 - * 災害時は特に、声を上げにくい人にこそ、声をかけましょう。

トイレ・衛生対策訓練の例

茨木市で実施した女性のみの方災訓練より

- * 基本の講義 約15分 ←避難所づくりチームと合同
(防災上の男女共同参画視点の重要性と女性リーダーの必要性)
- * 災害時のトイレ・衛生問題についての基本説明 約10分
- * 実技とグループワーク 約45分
 - ・ 簡易トイレの組み立て・環境整備
(周辺に多様なアイテムを用意しておき創意工夫)
 - ・ グループワーク
(必要トイレ数の算出、男女別等の割合、設置場所、要配慮者への対応、衛生対策ルール作り)
- * 振り返り 約15分 (人道支援の最低基準とともに)

本日のトイレワーク その1

- ① まずは、みんなで携帯トイレを疑似使用したり、簡易トイレを組み立ててみよう！
- ② 災害直後、水が出なくなった避難所！詰まったらトイレはその後しばらく使えなくなってしまおう。でも避難者は増えていて、トイレを使おうとする人もいる。どうする！？

ワークその2 仮設トイレの調達

避難所には600人の被災者がおり（男女半数ずつ）、簡易トイレも使ってしまったため、仮設トイレを要請することになった。車いすの障害者2人と高齢者2人、足腰が悪く介助が必要な高齢者20人、臨月が近い妊婦が3人いる。

市内ではエコノミークラス症候群で亡くなった人も出ているらしいので、整備は急務だ。

①敷地も限られるため、最小限の数を要請することになったが、トイレは何基要望する？

（ただし洋式は数に限りあり、上限3基まで）

②届いたトイレを、男女別を含めどのように何基ずつ配分する？

ワークその3 仮設トイレの設置場所

- ① ワーク1で調達したトイレを、具体的にどこに配置する？学校の配置図を見ながら話しあい、どこにどのように配置するとよいか、書き込んでみよう。なお今回の設定ではトイレの形態とサイズは下記とする（和式・様式ともに）。
- ② 足腰の悪い高齢者や障害者を優先した部屋がある。外の仮設トイレに行くのは厳しいため室内にトイレを置くか、水は流せないが、校舎内のトイレを活用し、なんとかすることになった。どうする？



幅90×奥行150×高さ260cm

ワークその4 トイレ・衛生対策を考えよう！

トイレ環境と健康をめぐり以下のような問題が起きている。「トイレの環境整備」と「衛生と健康維持のための対応」にわけて議論して下さい。

① トイレ環境のためのルール・体制を考えよう

- ・ 2・3人の人が時々トイレ掃除をやってくれているが、十分ではなく、汚れが目立つ。
- ・ トイレの汲み取りが不十分で、トイレットペーパーも便槽に捨てるとすぐにいっぱいになってしまうので、ペーパーは別で袋に捨てようという話が出ている。
- ・ トイレットペーパーが無くなっても補充しない人がいる。
- ・ 手洗い場がわかりにくい上、適当にしか手を洗わない人もいる。
- ・ トイレの使い勝手が悪い、建物から外にいくのに段差があるなどで、トイレ介助が必要な高齢者がいる。
- ・ 不審者が時々出るとのうわさがある。

ワークその4 トイレ・衛生対策を考えよう！

②衛生と健康の維持のための対応

以下のような問題が起きている。なお、2・3日前から、希望すれば必要な物資は届き、毎日医療チームが巡回に来てくれるようになってきた。

- ・エコノミークラス症候群で亡くなったと思われる人がいる。
- ・市内では膀胱炎になった女性が複数いるとの話だ。
- ・便秘で苦しむ高齢者が多い。
- ・他の避難所でノロウイルスが発生したという。
- ・風邪の人が増えているが、今日、インフルエンザの人も出た。

②－1 どのような対策が必要か話し合おう

②－2 避難者へのメッセージを考えよう！



給水、衛生、衛生促進

作成: 静岡大学池田恵子

WASH

衛生促進

給水

し尿処理

排水

病原体媒介生物対策

固形廃棄物管理

GDRR

ジェンダー・多様性配慮に関する項目

頁

①	男女別とし、男女用トイレの比率は1:3とする。 (避難所では、初期は50人に1基、後に20人に1基 病院では、初期に20人に1基、後に10人に1基)	99-102
②	トイレは、すべての被災者が安全に使えるよう、設置場所と設計について被災者(特に女性と移動が困難な高齢者や障がい者)の意見を求め、了承を得る。	99-102
③	トイレは、日中・夜間安心して使え、使用者、特に女性・少女の恐怖を軽減する場所に設置する。	99-102
④	生理のある年齢のすべての女性・少女が衛生的で適切な生理用品を供給される。	99-102
⑤	乳幼児の世話をする人に、子どもの排泄物を安全に処理する手段が確保されている。	99-102

災害時の要配慮者支援を考えるワークショップ

避難所となった小学校には、下記のような人たちがいます。本人や家族はどのようなことに困るでしょうか？どのような配慮・支援が必要でしょうか？

①困ることを話し合い付箋に書いて貼ります(1つの対象につき5枚以上)

→ ヒント: モノ・環境・情報・人手の支援

②その後、必要な配慮・支援について話し合い付箋に書いて貼りつけます。

③最後に支援に役立つ知恵・資源・専門性を持つ人・団体を書き出します。

対象	困ること	他の支援
目の悪い人	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
耳の悪い人	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
体が不自由・ 車いすの人	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
喘息・食物アレルギー・ アトピー性皮膚炎	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
高血圧・糖尿病	<input type="checkbox"/>	
妊産婦・乳幼児		
外国人		

先に「困ること」を埋めます
(最低でも合計35枚貼り出す)

災害時の要配慮者支援を考えるワークショップの目的

- * 多様な経験を持つ複数の人がいないと、要配慮者支援の質を上げることはできないということを実感してもらう

「35枚の付箋を一人で貼りきることができると思いますか？」

- * 女性の経験・知恵・知識、リーダーシップの発揮の重要性を男性リーダーに実感してもらう。

男女混成の場合。女性のほうがより多く・早く困難要素を出す傾向にある。

教える側と教えられる側の逆転とともに、男女間のコミュニケーションが進むこともあり、多様な人材を活かすためのコミュニケーション・リーダー像を疑似体験できる。

- * 女性に自信をつけてもらう

「特別な技術・専門知識ではなく、むしと、女性としてのつらさ、生活経験に基づく知識や発想を、そのまましっかり出していただくことが何より大切なのです」

- * 「してあげる」でなく「一緒にする」が重要と知ってもらう

困難当事者（と家族・支援者）の立場に立とうとする気持ちと、コミュニケーションスキル、当事者が意見を述べる場を作ることが一番大切であることを知ってもらう。

「男女共同参画の視点による平成28年熊本地震 対応状況調査」のあらまし

＜アンケート調査の調査項目＞

- ① 被災自治体向け調査
 - ア. 事前の備え・予防体制について
 - イ. 防災・災害対応に関する教育・啓発
 - ウ. 発災後の支援体制と避難所等について
 - エ. 応急仮設住宅
 - オ. 復旧・復興について
 - カ. その他
- ② 応援自治体向け調査
 - ア. 職員の体制について
 - イ. 発災後の対応
 - ウ. 避難所等での支援について
 - エ. その他
 - オ. 事前の備え・予防体制について
 - カ. 防災・災害対応に関する教育・啓発
- ③ 民間支援団体向け調査
 - ア. 普段の活動状況について
 - イ. 発災後の対応
 - ウ. 避難所等での支援について
 - エ. その他

＜ヒアリング先一覧＞

熊本県益城町役場
益城町総合体育館
（指定管理者：YMCA）
益城中央小学校
熊本県御船町役場
御船町スポーツセンター
（指定管理者：YMCA）
熊本学園大学
熊本県助産師会
マザーズハローワーク熊本
熊本県南阿蘇村役場
社会福祉法人順和会
（特別養護老人ホーム陽ノ丘荘）
南阿蘇村久木野総合福祉センター
（指定管理者：南阿蘇村社会福祉協議会）
熊本県熊本市役所
さくらんぼ保育園
岐阜県庁
宮城県仙台市役所 ※ヒアリング日程順

〔事例〕 益城中央小学校の取り組み

益城町の中央小学校は、比較的地縁関係が薄い人の集まった避難所であったが、吉村静代氏（益城だいすきプロジェクト きままに 代表）を中心に、以下に示すような取組を実施し、発災2か月後から住民自治による運営を行った。

①女性の視点からの避難所自主運営

女性だからこそできたことが多い。男性は組織的にやろうとし、そこに負担を感じる人がでてくる。「できる人が、できることを、できた分をする」という雰囲気になっていった。この方針について男性からの反対もなかった。

住民活動を促すタイミングは発災後2週間頃まで。1ヶ月経過すると支援を受けることに慣れて自発的に活動しなくなる恐れがある。「布団畳み」「掃除」「挨拶」といった日常生活に戻る取組を実施しただけで避難者も元気になっていった。

②固定的性別役割分担意識の解消

トイレも含めた掃除や食事配りなど、男女が共にやるような雰囲気づくりを行った。

③女性・子ども専用スペースの確保

乳幼児のいる世帯（8世帯）の専用スペース、女性専用スペース（シャワールーム、着替えや清拭ができるスペース）を常に確保した。

④働く女性への互助的サポート

3人の子どもがいる共働き家庭に対して、周りの避難者がサポートしていた。避難所としてコミュニティが形成されていたため、仮設住宅への移動に際し、中央小避難者で当選した人が近隣にまとまって居住できるような配慮を役場と交渉した。顔見知りで隣同士になったことで、仕事で不在にしている家庭の洗濯物を雨のときに取り込んであげるなどの活動が自然になされている。

〔事例〕 熊本市男女共同参画センター はあもにい の取り組み

熊本地震発生後、阪神淡路大震災や新潟県中越地震、東日本大震災など過去の震災での経験や報告書など、全国の女性会館、男女共同参画センターなどからアドバイスが寄せられた。それを受け、熊本市内各地の避難所を回り、男女共同参画の視点からアドバイス等を行う「避難所キャラバン」等を実施。

①男女共同参画の視点からの環境改善活動

- ・ 内閣府チェックシートによる、避難所スタッフヒアリング
- ・ 更衣室や授乳室などの表示配布
- ・ 意見箱「みんなの声」の設置・意見の回収
- ・ 避難所入所者個別ヒアリング
- ・ 女性やこども向けの支援物資提供の呼びかけおよび配布

②性暴力・DV防止啓発運動

性暴力・DV防止ポスター・チラシ、カード、HPによる啓発

③避難者自立支援講座

防災ミニ講座／防災食講座避難者支援／足湯&茶話会 ・防災食クッキング

④支援者支援 自己メンテナンスシートの作成／支援者ストレスケア研修

⑤若者支援 ガールズ支援シンポジウム（主催）

⑥防災基礎講座・避難所運営実践講座

⑦親子支援

「子育ておしゃべり会」／親子メンタルケア講座（市内5か所 保育園・養護施設など）
／LADY・トーク（共催）／防災食を使った 父子料理教室 など

<参考文献>

- 浅野幸子、2011、『あなた自身と家族、本当に守れますか？女性×男性の視点で総合防災力アップ』財団法人日本防火協会.
- 浅野幸子、2013、「地域防災活動における女性・女性団体の位置づけとエンパワメント～東日本大震災における婦人(女性)防火クラブによる活動とその意義を踏まえて」『消防研修』消防大学校.
- 浅野幸子、2016、「被災時の女性／男性の困難から考える災害対策の意義と重要性」『日本自治体危機管理研究 vol.18』日本自治体危機管理学会.
- 浅野幸子、2017、「地域防災活動における多様な主体の連携の重要性～組織の持続可能性と“共助活動の質”の向上を視野に入れて」『消防研修』消防大学校.
- 浅野幸子、2017、「男女共同参画・多様性配慮の視点に立った防災人材育成の重要性」『危機管理レビュー』一般財団法人日本防火・危機管理促進協会.
- 浅野幸子・池田恵子、2013、『男女共同参画の視点で実践する災害対策 テキスト 災害とジェンダー<基礎編>』東日本大震災女性支援ネットワーク.
- 浅野幸子・池田恵子、2014、『男女共同参画の視点・多様性配慮の視点で学ぶ防災ワークブック 地域・団体に使える！基本知識の解説とワークショップ教材8』減災と男女共同参画 研修推進センター.
- 浅野幸子・池田恵子、2015、「ジェンダー視点による防災と地域の持続可能性との接続 東日本大震災の被災状況を踏まえて」震災問題情報連絡会編『東日本大震災研究交流会研究報告書』科学研究費・基盤研究(A)研究課題番号24243057「東日本大震災と日本社会の再建—地震、津波、原発震災の被害とその克服の道」.
- 浅野富美枝、2016、『みやぎ3・11「人間の復興」を担う女性たち 戦後史に探る力の源泉』生活思想社.
- 池田恵子、2012b、「災害リスク削減のジェンダー主流化—バングラデシュの事例から」『ジェンダー研究』15、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター
- 池田恵子・浅野幸子、2016「市区町村における男女共同参画・多様性配慮の視点による防災施策の実践状況：地域コミュニティの防災体制に定着するための課題」『地域安全学会論文集』29.
- 一般財団法人日本防火・危機管理促進協会、2013、『地域社会の防災ネットワークに関する調査研究 報告書』.